



発刊にあたって

日頃より、根室管内の主幹産業である酪農の健全な発展のためにご努力いただき、心より感謝申し上げます。

平成13年は、気候は比較的冷涼で家畜にとって過ごしやすい状況だったと思います。92年ぶりの口蹄疫の発生に加えて、昨年9月国内で初めて牛海綿状脳症（BSE）が確認されたことにより、国内牛肉の消費減退や出荷繰り延べ等、基幹産業である酪農畜産に大きな影響と多大な不安を与え、また、消費者の畜産物に対する安全性の関心は非常に高くなっております。

と畜場へ出される牛の検査体制が確立され、検査に合格した安全な牛肉だけが市場へ流通することになりましたが、感染ルート、発生原因を早急に解明し、消費者の理解を得ながら牛肉の消費回復や、牛の个体価格の回復を図ることが最優先で、地域としてもこれらの対策を進めて行かねばなりません。

さて、この地域の酪農・肉用牛生産は豊富な土地基盤を背景に、欧米と肩を並べるまでに発展しましたが、こうした中で牛乳等においては「北海道ブランド」として定着するなど、クリーンでおいしい農畜産物は全国的に高い評価を得ているところです。

しかし、これに伴い酪農・肉用牛経営における労働過重や労働力不足、経営主の高齢化や後継者不足から農家戸数が年々減少し、地域社会の維持・活性化が極めて重要な課題となってきております。

このことを踏まえ、平成13年3月に平成22年を目標とする酪農・肉用牛生産近代化計画の見直しが行われました。

この中では、酪農・肉用牛生産は自給飼料を中心に草地型酪農を基軸として、「土、草、牛」が調和した、ゆとりある酪農・肉用牛経営を確立するため、人と家畜と環境にやさしい酪農・肉用牛生産を目指す等の内容となっております。

この度発行する平成14年版営農改善資料（第30集）は、「うるおいのある酪農」について編集したところですが、本資料が、幅広く酪農家の皆さんに活用していただければ幸いです。

最後になりましたが、本資料作成にあたり、全面的にご協力いただきました南根室地区農業改良普及センターをはじめ、関係各機関の皆様にお礼を申し上げます。

平成14年2月

南根室地区農業改良推進協議会

会長（別海町産業振興部長）

加 勢 正 司



編集にあたって

新しい年を迎え、ご家族のご健勝を祈念されて、営農に取り組んでいることでしょう。昨年の春先は、正月の降雨で冬枯れが根室・別海町の一部地区で発生、一番草の収穫に影響が出ました。幸い収穫時に天候に恵まれた日があった為に、良質粗飼料を収穫された人が多かった。

また、BSE関連では、未だ原因不明の部分が多く、農業者・消費者・関係機関は不安な毎日を送っていますが、と殺段階で厳重な検査をしているため、肉の安全は確保されていると言えます。

さて、今回の営農改善資料30集は、農村生活が「ゆとり」と「うるおい」のある酪農経営をテーマにしました。

この課題は幅広く検討しにくいものですが、考え方や事例を踏まえて職員が執筆致しました。

根室管内の酪農は、入植以来、規模拡大の道を歩んでまいりましたが、しかし、最近では1戸当たりの飼養規模が100頭を超え、夫婦2人で搾乳・飼料調製・子牛育成、飼養管理・家畜糞尿処理の規模が大きくなり、労働過重が問題になってきています。

今後、農業システムの検討、導入を検討しなければ家族に負担が掛かります。また、生活面では精神的ゆとりや潤いが必要ですが、戸別完結の酪農経営では限界があります。これらの事を考慮し、家族や地域活性化の検討素材になれば幸いです。

平成14年2月

南根室地区農業改良普及センター

所長 榎本博司